

2015.3.7

生誕100年 スヴヤトスラフ・リヒテルの世界

ピアノの巨匠

プログラム

今年は、ロシア出身で20世紀を代表する巨匠ピアニストのひとり、スヴヤトスラフ・リヒテルの生誕100年に当たります。そこで今日はリヒテルの残した名演の数々をライヴ音源の中からお聴き頂くことにしました。

スヴヤトスラフ・リヒテルは1915年3月20日、ウクライナのジトミールに生まれ、1997年8月1日、モスクワ郊外の別荘で82歳の生涯を閉じました。ドイツ人の父はピアニストでしたが、後に死別、リヒテルは独学でピアノを始めます。22歳でモスクワ音楽院に進みゲンリッヒ・ネイガウスに師事、師から“何も教える事はなかった”と言わしめる程の天才ぶりを発揮しました。1934年にデビュー後、その評価はうなぎ上りに高くなって行きますが、その活動が国内と旧東欧に限られていたため、旧西欧諸国ではレコードだけしか聴けない“幻のピアニスト”でした。1960年にアメリカ・デビューを果たすと、1962年以降ヨーロッパ各地で活躍、日本には1970年万国博の時に初来日、1994年まで度々来日し、素晴らしい演奏の数々を残してくれました。

リヒテルは、バッハから近代・現代の音楽まで幅広いレパートリーを持っていました。それは強靱な技巧に支えられた繊細な最弱音からスケールの大きな最強音まで、緻密にコントロールされたもので、どんな作品にも素晴らしく音楽的な陰影を吹き込んでくれる数少ないピアニストのひとりでした。今日は最後の来日公演、巨匠オISTRAフとのデュオなど、幅広いレパートリーの一端をお楽しみいただけるプログラムです。

ロベルト・シューマン (1810~1856):

幻想小曲集 *op.12* ~ 飛翔/なぜに

クロード・ドビュッシー (1862~1918):

ベルガマスク組曲 ~ 月の光/パスピエ

スヴヤトスラフ・リヒテル(P) (1978.8.10 リスト音楽院大ホールでのLive)

エドヴァルド・グリーク (1843~1907):

叙情小曲集 第7集 *op.62* ~ 感謝/まぼろし

モーリス・ラヴェル (1875~1937):

道化師の朝の歌 (鏡より)

スヴヤトスラフ・リヒテル(P) (1994.3.6 昭和女子大学人見記念講堂でのLive)

ロベルト・シューマン (1810~1856):

ピアノ協奏曲イ短調 *op.54* ~ 第1楽章から、第3楽章

スヴヤトスラフ・リヒテル(P)

リツカルド・ムーティ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

(1972.8.17 サルツブルク祝祭大劇場でのLive)

*** 休憩 ***

ヨハネス・ブラームス (1833~1897):

ヴァイオリン・ソナタ第2番イ長調 *op.100* ~ 第1楽章、第3楽章

ダヴィッド・オイストラフ(Vn)/スヴヤトスラフ・リヒテル(P)

(1972.8.20 サルツブルク、モーツアルテウムでのLive)

フレデリック・ショパン (1810~1849):

ワルツ第3番イ短調 *op.34-2*

スヴヤトスラフ・リヒテル(P)

(1977.8.26 サルツブルク祝祭小劇場でのLive)

ヴォルフガング・アマテウス・モーツァルト (1756~1791):

ピアノ協奏曲第18番変ロ長調 *K.456* ~ 第1楽章から、第2楽章、第3楽章

スヴヤトスラフ・リヒテル(P)

ルドルフ・バルシャイ指揮新星日本交響楽団

(1994.3.3 サントリーホールでのLive)